



業種関係なく取り組めるSDGs 具体的な取組内容③

4月号から、ステップ1の「SDGsを理解する」に重点を置き、業種別の具体的な取組内容をシリーズで紹介してきました。12月号に引き続き、今月号も業種関係なく取り組める活動について紹介していきます。

※以下で紹介する取組はあくまで一例です。

照明器具のLED化

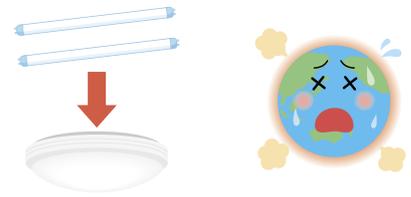
省エネやCO₂削減は、照明の分野においても取り組まなければなりません。その一つの解決策が、LEDを使った照明です。省電力のLED照明を使うことにより、CO₂削減による地球温暖化防止に貢献できます。

LED照明は、一般照明と比べて圧倒的な長寿命・省電力を実現するとともに、蛍光灯などに含まれる、水銀や鉛、カドミウムを使用していないため廃棄処理が容易です。また、熱線や紫外線などの有害光線の放出が少なく、人に優しいという特長もあります。

2020年12月31日以降、蛍光灯照明器具の生産は終了。さらに、蛍光灯も各メーカーは生産を打ち切りつつあり、在庫が無くなり次第、使用できなくなってしまう。

この機会に照明器具のLED化を検討してみてもはいかがでしょうか。

関連するゴール



エコキャップ運動への参加

エコキャップ運動とは、ペットボトルのキャップを収集し、そのリサイクルで発生した利益を、発展途上国の子ども向けのワクチン代として寄付する運動のことで、ゴミの削減や資源の節約はもちろん、1人1人が気軽に取り組める身近な活動です。

※キャップ約1,000個が1人分のワクチンに変わります。

関連するゴール



個人で取り組めるSDGs

簡易包装や詰め替えの商品を選ぶ

シャンプーやコスメの詰め替え商品や簡易包装の生鮮品を選ぶのも、個人でできる身近なSDGsです。詰め替えや簡易包装を選べば必要のないゴミを出さずに済みます。

シャンプーや洗剤などの詰め替え商品を、ボトルに詰め替えずにそのまま使えるグッズもあります。

関連するゴール



2ドア軽自動車地域最安値
24時間 **2,200円** 24時間
1週間 **8,580円** 1ヶ月 **27,280円**
メンテナンス不要・保険付き・税込

買うより借りる
ガッツでしょ!
ガッツレンタカー新潟駅前店
TEL: 025-256-8520 FAX: 025-256-8325
新潟市中央区明石 1-2-10 コーポ明石1F
https://guts-rentacar.com/

『認定支援機関』として新潟の企業を応援します!
詳しくはこちらへ → <https://www.ogawakaikei.co.jp/>
(本店) 新潟市東区豊2-6-52 TEL 025-271-2212

税理士法人 小川会計	株式会社 小川会計 コンサルティング	社会保険労務士法人 KBS
●法人税務～相続まで総合支援 ●事業承継とコロナ対策支援	●経営計画策定・モニタリング支援 ●認定支援機関補助金申請	●人事・労務相談 ●就業規則・助成金申請

会社の福利厚生を応援します
新潟市が出資している法人です。
従業員1人当たり月800円で、充実した福利厚生を実現!

会員募集中!

主な事業：慶弔給付、健康維持増進、自己啓発援助、余暇活動援助ほか

愛称 **ニピイ**

公益財団法人
新潟市勤労者福祉サービスセンター
新潟市中央区西堀通6-878-1 西堀7番館ビル3F
電話 (025) 201-6113 <http://www.nipy.jp/>

本連載では、IT 経営マガジン「COMPASS」に掲載した全国の IT 活用事例を
もとに、中小企業の経営において、IT がどのように役立つかを解説していきます。

ITを事例から ひも解く



建設現場の作業報告・経営の見える化が 各段にスピードアップ『共創』の事例

モノとモノがインターネット上でデータをやり取りして自動的に動作をするIoT、人の判断を代行するAI、無人航空機ドローン（飛行は遠隔操作や自律制御）など、最新の技術について耳にしたことがあると思います。これらを活用して業務を圧倒的に便利にした事例も見られています。

一見、「中小企業には関係なさそう」な気がしますが、そんなことはありません。特に屋外で仕事をすることが多い第一次産業や建設業などは、新しいIT技術を適用できる場面が多くあります。

最新技術を現場業務に生かす際、ユーザー企業とITベンダーが業務課題を相互理解し、システムを試しながらよりよいものに育てていく「共創」という在り方が注目されています。

宮城県の建設業・丸本組は、県内のIT企業・トライポッドワークス社と共創し、土木工事現場の作業報告業務を革新しました。

「COMPASS」2022夏号から転載（記載内容は掲載時点のもの）



IT経営マガジン「COMPASS」編集長
石原 由美子

建設工事現場で重機が土を掘削（掘って土を処理する）。その様子をカメラ（一部ドローン）が捉える。これはただの「撮影」ではない。

建設会社側のパソコンやタブレットでは、重機の稼働時間、掘削した土の量、日／週ごとの変化、目標との乖離（かいり）など、工事の判断に必要な情報が見やすく表示される。進捗状況がすぐに把握でき、データを工事の作業改善に生かしている。

これは、宮城県石巻市に本社を置く丸本組（まるほんぐみ）と同県のトライポッドワークス社の共創にて開発した、AIを利用した工事進捗（しんちよく）の見える化ソリューション、および活用の様子である。

「工事の進捗確認は現場を見て手書きで行うのが一般的でしたが、建設業ではカメラなどを使って遠隔で把握できる仕組みが求められるようになりました。取引のあったトライポッドワークス社が基盤となる映像解析サービスを持っていると聞き、掘削工事でどう使えるか挑戦することにしました」

丸本組の技術支援部部長・山岸邦巨氏は背景をこう説明する。

映像を元に重機の動きをトラッキング（データとし

て追跡）して、AIが稼働・非稼働を判断したり、ドローンが撮影した画像から掘削した土の量をはじき出したり、データを整理して表示する。

IoT/AI技術でデータ取得は容易になりつつあるが、「生かし方」はさまざまだ。トライポッドワークス社は現場に足を運び、どんなデータが分かると業務改善に役立つか、どのような分析画面であれば使いやすいかを理解し、構築に至った。

丸本組では、データを見て気になったことがあれば映像に戻って確認できるので、感覚的にも分かりやすく、ノウハウを蓄積できる。映像を利用する同システムでは重機に装置を装着する必要がないため、センサー付きの重機に変えるなどの対応も不要。現場に影響を与えず、スタートしやすいのも特徴だ。

山岸氏は、「工事を行う側からすれば、監視されている感じもあるかもしれませんが。しかし、状況が見えれば動き方を変えたり、計画を練り直したり、生産性を上げることができます。使いながらさらに良い在り方を考えていきたい」と、さらなる活用に意欲を見せた。

事例からヨミトル

- ・現場の業務には、最新の技術を使って便利さを高めるチャンスが多々あります。
- ・業務上大事なポイントや課題をITベンダーと共有しながら最適な仕組みを共に創りあげる「共創」の取組は、今後さらに増えていくでしょう。

会社概要

社名	株式会社 丸本組
住所	宮城県石巻市恵み野三丁目1番地2
創業	1946年
従業員数	170人
事業内容	土木・建築工事の設計および請負
URL	https://maru-hon.co.jp/